



善正寺だより

掲示板法話

心は妄念消えざれど 身は本願の中にあり

今年もまた、花の季節が巡ってきました。花と言えば桜の花ですが、花の盛りは短くて、風が吹けば短い間に散ってしまう。人の世の無常を象徴する花として古来、愛される所以です。

「散る桜残る桜も散る桜」(良寛)。通夜や葬儀にお参りする時、亡き人は残る私たちに「他人事じゃないぞ。油断せず生かされる命を大切に生きよ」と教えて下さっている、と良寛さんの句は語っています。しかし、そんな殊勝な味わいは、日常の日暮らしの中に忘れてどこへやら、というのが浅ましい我が姿です。

ところが先日、愛知県のある方から立派な色紙入りの額を贈られ、胸を衝かれる思いになりました。

「心は妄念消えざれど、身は本願の中にあり 釋秀謙」という歌が書かれてあったのです。書いたお方はお東のお寺さんで、今年三十三回忌をお迎えになるとのを送り主の先生(小桜秀謙師のご令息)から教えられました。歌の心は正信偈の「極重悪人唯称仏

(小桜秀謙師)

我亦在彼攝取中」(罪の人々名、即ち南無阿彌陀仏を称えよう、我も光のうちにある、の意)に依るお味わいと云えるでしょう。私が胸にぐっときたのは、我が亡父・渡辺尚爾が晩年寝たきりの身になった頃、しきりにお説教を取りでつぶやいていた言葉とそっくりの詩であったからです。

「妄念昔に変わらねど、身は本願の中にあり。有難いですがなあ、南無阿彌陀仏・・・」。こっそり録音しておいたテープを聞いて下さった某師が「お父さんの説教は、まるで環状線の電車と一緒で、終点がない。でもね、これは、教えが身に付いているということですよ、あなた大事にしなされや」とお諭し下さいました。父の往生直後、

報恩講のご法話にお越しく下さったご講師の言葉も父の思い出と共に蘇りました。恐らく、父とこの釋秀謙師の間で生前交流があり、お説教を聴聞したご縁が心の奥底に残っていたに相違ありません。父の元気な時にこのフレーズは全く聞かれなかったけれ



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

☆行事ご案内

初参式・降誕会(ごうたんえ)

4月21日(土)午後1時 赤ちゃん募集千円

講師:加藤幸子先生、主催:三全仏教婦人会

◇4月の門信徒会例会

4月15日(日)夜7時半

- ①恵信尼さま(親鸞聖人の奥様)の話題
- ②30年度門信徒会総会(5/20)の準備

◇一縁会テレホン法話 Ⅸ 059-354-1454三重組有志の僧侶・坊守、若院が週替わりで3分法話、新刊法話集「参らせてもらうでね」(自照社刊)発売中

◇三全仏教婦人会総会 3月20日夜7時光念寺様で

◇絵手紙教室 4月10日(火)午前10時 31回目川崎光子先生 庫裏食堂で。作品は小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ4月7日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、

◇初参式の赤ちゃん幼児募集!4月21日(土)午後1時善正寺 三全仏婦主催、参加費千円、地域で子供の誕生と成長を祝福

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年8か月で26万2千訪問、一日平均80人程、悩み相談、大歓迎!即返信

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

ど、歳月の隔てを超えて心の琴線に触れた真実のおみのりが、寝た切りの身に呼び覚まされ、思わず知らず口をついて出て下さったのでしょうか。
この度、久しぶりに父の臨終法話の歌とそっくりのオリジナルの詩が庫裏の仏間、亡父遺影写真のすぐ近くに掲げられるようになりました。釋秀謙師、そして亡父のお浄土からの言葉が蘇りました。「迷いの心は消えないけれど、この身は皆丸ごと、ご本願のお救いの中にある」ことを改めて教えられたのです。
「さまざまのことも思い出す桜かな」(芭蕉)。揮まない時も揮まれているのです。

☆ 写真アラカルト ☆

巣立ちの春
キッズサンガ
卒業式等



坊守スケッチ

消えゆく「お互いさま」



20年程前、一人暮らしをしていた私の母が、市場へ手押し車で買い物に行った帰路、にわか雨に遭遇しました。丁度その時幼子に乗せた若い母親が車を停止。「良かったら私の傘を使っ

て下さい。返却は無用。困った時はお互い様ですから」と名前も告げずに立ち去りました。母はただ勿体なくて

「何かの方法でお礼の気持ちを伝えて欲しい」と私に頼みました。私は早速新聞に投稿。イラスト付きでお礼記事が掲載されました。昔堅気の母は、見知らぬ女性の親切に感激して、この喜びを世間の人にも伝えたいと思った。困った時はお互いさま」という助け合い精神、これこそが日本が誇るべき風習ではありませんか?

また33年前、善正寺前坊守の通夜の席で他所からの参詣者が驚かれました。「小杉は何故こんなにも結束力が固いのだ?不思議だ。都会では全業者任せ。お金で済ませてしまうのに」その当時、小杉町では冠婚葬祭には隣近所や薄い親戚まで必ず集まって、助け合う「お互いさま」の意識が根付いていました。それが今ではどうでしょうか?ご縁の糸はいとも簡単に切れ、固い絆は瞬く間に失いました。もう二度と後戻りはできませんが、家族や地域もバラバラで寂しいと感じるのは私だけでしょうか?

日本文学研究者で東日本大震災後

日本に帰化されたドナルド・キーン氏は変わりゆく日本の姿を的確に指摘しています。

「日本社会の強さは、高い教養と共同体意識の筈だ。それが世界に誇るべき日本独自の文化を支えてきた。急増する外国人観光客が、どこを訪れ何に心を持つかを見れば明らかだろう。貧しくも豊かだった日本が、豊かだが貧しい国になりやしないか、危機感を持っている」。私達自身も「困った時はお互いさま」と発せられるように、思いやりの心溢れる共同体意識の大切さを、後世の人々にも伝えたいと思う。

カンパありがとう!

T様、K様他よりお志、切手等頂戴。有難うございました。

敬 弔 林繁様 (三ツ谷町、八十四歳) 三月九日、往生の素懐を遂げられました。謹んで敬弔の誠を捧げます。合掌。

寄稿

四日市市・釋清風

- ・春浅し雲間に光る伊勢の海
- ・育ちゆく孫の机や雛の家
- ・師を偲ぶ便り届けり花だより
- ・遅咲きの鯉梅の香や師を偲ぶ
- ・卒業式答辞の声の打ち震え



☆若院夫婦の『育自な毎日』その40
4月から長男(6)の小学校入学と長女(3)の幼稚園入園が重なりました。昼間は子供がいないので、嬉しいよう

なちよっぴり寂しいような心境です。長女は先月のキッズサンガで「らいはいのうた」のお導師を務めてくれました。その堂々たる姿に驚きました。

長女は、家族やよく見知った人の前では、とつてもお喋りでした。その反面、知らない人の前では、急に黙り込んで「ブイ!」と目を逸らします。人見知りには子どもにはよくあることですが、あまりに極端なので幼稚園でどうなることやらと心配です。

長男と長女はとも仲良しです。長女の乗る三輪車を長男が後ろから押す微笑ましい光景に出会いました。その時長女のセリフが「兄ちゃん、今日は優しいねえ」。聞いていた私は思わず吹き出しました。(兄妹だから喧嘩もするけど、本当は大の仲良し!)

口達者な長女ですが、甘えん坊の一面もあります。眠くなると、駄々をこねて抱っこを要求します。時にはスパーの店先で何が不満なのか、突然大声で泣き出します。外出先で泣き出されると私も困惑します。まだ3歳なのでむやみに叱らずに、落ち着いてから泣いた理由を尋ねます。それなりに理由を心えるので面白いものです。

新年度は新しいことの連続で、子供は緊張の日々です。毎日疲れて帰りますので、子供の表情の変化を感じとり、

話を聞いて安心させたいと思います。親にとつても登下校の見守りなど、新生活がスタートします。(若坊守)

お知らせ&募集

◇初参式の赤ちゃんと幼児大募集!
4月21日(土)1時、三全仏婦主催。会費千円、地域全体で子供の健やかな成長をお祝いしましょう。

◇新刊本・一縁会テレホン法話集『参らせてもらうでね』(自照社刊・800円)発売中、善正寺からは住職・坊守・若院の3名が掲載。

◇3月26日午後1時半、智積西勝寺様於、歌手ちひろさんの金子みすずコンサート。三重組門徒推進員主催。

善正寺・平成30年度今様の主幹行事

※4月21日(土)午後1時三全仏婦主催「初参式&降誕会」(加藤幸子先生)

※5月20日(日)午前「善正寺総会」

※6月16日(土)午前・午後「三重組仏教講習会」善正寺にて

※8月15日(水)午前8時半「孟蘭盆会(うらぼんえ)法要」善正寺本堂

※8月18(土)19(日)「秋季永代経」加藤正人先生、桑名

※9月23日午前・午後「小杉町追悼法要」(光念寺様於)

※11月2日・3日「報恩講」守快信先生(滋賀)2日お非時あり

※12月1日(土)午前お内仏報恩講

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」292号をお届けします。◇「咲いた花見て喜ぶ時は咲かせた根っこの恩を知れ」。仏智の光に。

春花盛り、新たな旅立ちの季節です。入学式、入社式、希望
で胸が膨みます。その一方で人生の旅立ちには深刻です。住み
慣れた自宅で最期を迎える人が12%。都会ではその数が微
増。理由は孤独死。しかし大半は望まぬ点滴や管に繋がら
ず、最期を迎えます。看取る人がいないとか、子供の世話にはな
りたくないという「家族力の低下」が原因です。先日、「人生最期
の迎え方」を考えるシンポジウムに参加しました。3人の講師
が次々に登壇。先ず47歳の末期癌の医師の夫を4人の子
供と看取った妻。最後の二晩、遺体を囲んで家族と過ごしま
した。夫の看取りの様子を映画にして話題となり、全国各地で
上映されて反響を呼んでいます。次に余命宣告を受けた人
に寄り添い、家族の相談相手になる「看取り師」の資格を
持つ女性の体験談です。最後は在宅訪問医療の先頭に
立つ医師の登壇。その医師の活躍で四日市市は在宅死の
割合が全国第4位（西日本で第1位）。主な要因は訪問医
師、看護師、緩和ケアクリニックの充実と増加です。マイネ
レサは「たとえ人生の99%が不幸でも、最後の1%が幸せならば
その人の人生は幸せに変わること言いました。人生の始まりと終
わりの最も大事な場面が、家族や暮らしの中から切り離さ
れてしまったことに、現代人がいのちを粗末にする原因が潜
んでいます。自分の望む最期を迎える為に、家族と
共に死生観を共有しましょう。3月の永代祭、4月の
初参式、いずれもいのちのバトンを受け取る大切な機会
です。あなたの心参詣をお待ち申し上げます。合掌

平成三十年四月

善正寺坊守拝